出発を前にして

人哲本塚（東京）

今年、昭和三十年は、私にとつて、大変な年になつてしまいました。本務が北海道にかわつただけではなく、入学会連合の奄美大島調査の幹事長という名の雑用係として五月から八月まで、前後二回、通算すると五十日程奄美大島に出ておりましたし、今度は、九月下旬から六ケ月間の予定で南ブラジルの農村をみにいくことになりました。奄美大島の農業や農村については、すでにほかの先生方が御覧になつておられますので、しばらくおくとして、これから出かけるブラジル農村については、ほとんど未知であるだけに、大きな期待をもつております。最近米国やブラジルで公刊されたこの関係の報告をみたわけですが、今まで多少勉強したアメリカの農村の様子と似かよつた面も多く、他方、集団植民地のばあいは、とくに日本人のそれは、戦後における内地の開拓村ないしは、劇合に新しい新開の村のような面もあり、面白そうに思つています。短期間にそうわかるものではありませんので、今度の旅行では、人口一万から三万ほどの都市を中心とする地域社会を一ケ月ずつの予定で、三ケ所ぐらいみてこようと思つています。小都市に住みつついて、一ケ月の間、その附近をぐるぐる廻れば、少しは見当がつくでしようし、これを三回くりかえせば、多少のことはわかるかも知れないと思つています。

札幌に着任して鈴木先生にお目にかかつた際、新しい農村地帯をみるには北海道は非常に面白い旨をうけたまわりましたが、北海道をみる前に、南米の新しい農村をみてくることになりました。鈴木先生はじめ諸先生の御期待の万分の一にでもお応えしようと思つておりますので、幾分でも結果が出ましたならば、村研の皆様に御報告致すことに致します。

○転居

中谷和夫　和歌山県有田郡有田町小豆島七二三

原宏　八幡市折尾町則松中垣氏方

○入会

山本陽三　福岡市荒戸町三丁目二〇六

斎藤孝　東京都渋谷区穏田三ノ一七三

事務局は「まわりもち」で

（東京）一事務局員

村研も第三回大会を迎えるまでに成長しました。この会が、目的の一つに同学の研究者の親睦と交流を掲げている以上、私たちはその事務も一二の大学で専任の形で受持つのでなく、多少の不便、不都合はあつても、各大学で「まわりもち」にした方がよいと考えます。その方がマンネリを排除し、運営を健全化し、会への親密感を増すと思います。

正直な所、私たちは少し疲れました。ここらで解放されたいと希み乍ら、皆様に提案旁々おうかがいします。